

(2) 洗剤はいずれから始めても両者の間に殆んど差違を認めなかった。

(3) 両試料とも硬軟度、防皺度は原試料に近似して極めて良好であった。

なお、その原因については樹脂の種類やその付着状態および処理による脱落その他にも関連するものと思われるので更に検討中である。

B—79 各種繊維衣料の諸性能に関する研究 (第7報)

不織布における洗剤処理方法

京都学芸大 ○石沢 スミ
杉本 弘子

1. 前報での処理方法ではトリクロールエチレンの場合は硬くなる傾向を、石鹼液では軟らかくなる傾向を認めた。したがって今回は特に硬軟度の高かった2種(A, B)について両処理方法を併用することによって硬さを軟らげることができるか否かを検討した。

2. 洗濯処理回数は前回と同様15回で、その間、トリクロールエチレン処理と石鹼処理とを適宜組合わせを行なって、それぞれについて硬軟度と防皺度を比較測定した。

3 (1) 洗濯処理回数の組合わせは石鹼処理2回に対しトリクロールエチレン処理3回の割合が最も適当であった。